

レビューシート（指標点検型）

様式2

レビュー項目 (事業名)	生活交通ネットワーク再編等実証実験	部(局)	土木部					
		所管課	交通政策課					
		担当班	地域交通班					
		連絡先	078-362-3885					
開始年度	R2年度	終了年度	—	関連計画等				
事業区分	<input type="checkbox"/> 国補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 県単独事業							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()					実施主体等	市町に対して補助	
事業目的	交通空白地の解消や公共交通の利便性向上等を図るため、市町と連携し、既存の交通ネットワークの最適化を図る実証実験を支援し、地域の実情に応じた交通ネットワークへの再編を促進する。							
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 市町が多様な交通モードの中から地域の実情に即した交通モードの選択、運用方法の検証が可能となるよう、令和6年度まではICTを活用したデマンド型乗合交通の実証実験経費を対象としていたが、令和7年度からは新たに路線再編のための実証実験経費も支援 負担割合：市町実質負担額に対し、1/2または1/3を支援 補助上限：1,000千円/市町 							
令和7年度 当初予算	8,000千円	(国庫)	0千円	(特定)	0千円	(起債)	0千円	(一般) 8,000千円
評価指標	指標名	6年度 実績	7年度 目標	8年度 目標	最終目標 【年度】	設定の考え方		
評価	成果指標(アウトカム指標①) 乗合バスの輸送人員	19,831万人	23,373万人	23,373万人	23,373万人	将来人口の減少が見込まれる中、現状(H30)を維持する。		
	成果指標(アウトカム指標②) 実装に至った取組数【累計】	10地域	15地域	20地域	30地域 【R10】	予算計上した実証実験の実施地域(8地域/年度)のうち、約6割にあたる5地域/年度での実装を見込む。		
指標	活動指標(アウトプット指標①) 本事業の周知を実施する回数	2回	3回	3回	3回	補助事業の対象となる市町に対して周知を実施		
	活動指標(アウトプット指標②)							
指標	活動指標(アウトプット指標③)							
	終期設定	有()					・	無
改善基準								
外部委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> 県内でのニーズも高く、実証実験を行った11件中10件が本格運行に移行しており、成果は非常に高いと言える。 現行のアウトカム指標(輸送人員数、県民の利便性評価)はマクロ的視点で、事業の直接的成果からは遠い。実証実験の成果として「本格運行への移行数」など、より近い指標を設定すべき。この事業によって交通空白地がどう解消されたか等のダイレクトな数値も指標設定として検討していただきたい。 病院に行きやすくなった、買い物が便利になったなど生活のシーン別に満足度が比較できるようになると良いのではないか。 成功事例を県内他市町に共有する取り組みを行っているのなら、横展開できた数をアウトカム指標として設定することも考えられる。 成果指標の見える化は、担当者のやりがい向上にもつながる。指標の工夫が行政職員のモチベーションにも影響するため、指標を利用していただきたい。 							
見直し結果								
<ul style="list-style-type: none"> アウトカム指標②については、意見を踏まえ、「交通空白」地区の解消に対する取り組みの直接的な成果として、「実装に至った取組数」に指標を変更する。 								